

氏名 大 谷 修

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 甲 第 473 号

学位授与の日付 昭和54年3月31日

学位授与の要件 医学研究科生理系解剖学専攻
(学位規則第5条第1項該当)

学位論文題目 On the Structure of the Flexor Digitorum Superficialis
— 浅指屈筋の構成について —

論文審査委員 教授 新見嘉兵衛 教授 大塚 長康 教授 田辺 剛造

学位論文内容の要旨

浅指屈筋の構成は複雑で今だ十分な研究がなされていない。そこで1976年度岡山大学医学部解剖学実習に供された屍体のうち26体52側を無作為に選び浅指屈筋の構成を調べた。浅指屈筋は、浅深2層に分かれる。浅層は橈骨頭と上腕尺骨頭の浅部からなり2筋腹をなし第3, 4指腱となる。深層は上腕尺骨頭の深部からなり、中間腱を形成した後、2筋腹となり第2, 5指腱となる。浅層と深層を連絡する筋束の有無により4型に分類した。I型の筋は浅層と深層とを連絡する筋束を持たない(4/52, 7.7%)。II型の筋は中間腱と第4指筋腹とを連絡する筋束(筋束A)を持つ(29/52, 55.8%)。III型の筋は筋束Aのほか、中間腱と第3指筋腹とを連絡する筋束(筋束B)を持つ(18/52, 34.6%)。IV型の筋は筋束Bのみを持つ(1/52, 1.9%)。浅指屈筋は正中神経からおこる4~5本の枝で支配される。これは通常、最上枝、中枝、下枝の3群に分けられるが、その各構成筋束に対する分布を末梢まで明らかにした。尺骨神経が上腕尺骨頭の小部分を支配するものが1例あった。また6種類の破格を記載した。

浅指屈筋の構成の多様性について系統発生と個体発生の観点から考察した。

論文審査の結果の要旨

本研究はヒトの浅指屈筋をその深層と浅層を連絡する筋束の有無によって4型に分ち、さらに正中神経の分布をも考慮して浅指屈筋の構成を明らかにしたもので、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。